

令和3年度

事業報告書

《社会福祉法人ふたば会》

令和3年度は、前年度から続く新型コロナウイルスの感染拡大により、日常生活の制限される状況が続き、法人及び各事業所の事業計画の多くを実施することが出来ませんでした。

感染対策として日々の状況に応じた対応をとることにより、ご利用者ご家族はじめ関係者の皆様には、面会制限をはじめ何かと我慢していただく状況が続きましたが、ご理解ご協力をいただき深く感謝する1年でありました。また、ご利用者の安全を守り、それを支える職員においては、プライベートにおいても自覚ある行動にて感染対策を徹底したことにより、最小限の感染者にとどめることが出来た。

このような中で、各項目において次のとおり取り組みました。

1 サービスの質の向上

①人材確保については、中長期的な人材確保の点から新卒者の募集をはじめ、若年者中心に行った。また、多様な働き方に対応することにより人員確保に努めた。その結果、離職率は前年度より改善が見られた。

②人材育成については、コロナ禍の影響により外部・内部研修ともに制限されることが多かったが、動画研修及びオンラインミーディングなどを活用し行った。

2 地域福祉サービスの創造と展開

①コロナ禍の影響もあり、地域との交流・連携を深めることが出来なかった。今後、この状況下でも地域資源としての役割を果たせるよう、感染対策を実施したうえで行える、サービス内容を検討することが課題となった。

3 持続可能な経営基盤の確立

①コロナ禍の影響により、利用控えや入所施設への申込みの減少により稼働率が減少した。また、物価高・原油高の影響により経営環境が悪化するなか、ケア記録及び情報共有のICT化などにより業務の効率化を図り、経費の削減に取り組みました。その結果、減収減益となったが、影響は最小限にとどめることが出来た。

②ふたば荘の建替を含めた中長期経営計画の立案を行い、資金計画の立案を行ったが、稼働率が伸び悩むなか安定した経営を行うために、収入確保の方策が課題となった。

1.施設の概要

法人の沿革

昭和53年	8月	4日	社会福祉法人ふたば会設立
昭和54年	4月	5日	特別養護老人ホームふたば荘開設（定員50人）
昭和57年	4月	1日	特別養護老人ホームふたば荘定員80人変更開所
平成9年	4月	1日	デイサービスセンターふたば荘及び 在宅介護支援センターふたば荘事業開始
平成11年	10月	25日	居宅介護支援事業指定（3870500174）
平成12年	1月	5日	訪問入浴介護事業指定（3870500232）
平成12年	2月	25日	通所介護事業指定（3870500323）
平成12年	3月	17日	短期入所生活介護事業指定（3870500505）
平成12年	4月	1日	介護老人福祉施設指定（3870500570）
平成19年	9月	30日	訪問入浴介護事業廃止
平成23年	4月	19日	特別養護老人ホームふたばの森設置認可
平成23年	4月	22日	特別養護老人ホームふたばの森指定（3890500238）
		〃	グループホームふたばの森指定（3890500220）
平成23年	4月	28日	ショートステイふたばの森指定（3870502162）
		〃	デイサービスセンターふたばの森指定（3870502154）
平成23年	5月	1日	ふたばの森各事業所事業開始
平成27年	5月	31日	デイサービスセンターふたば荘事業休止
令和2年	3月	31日	デイサービスセンターふたば荘事業廃止

法人の土地・建物・定員

【所在地】 新居浜市船木字上原甲959番地1～4，962番地 985番地
974番地1 977番地1 980番地1，2，3

【敷地面積】 15,004.27㎡

《特別養護老人ホームふたば荘》 (補助)

(建物構造) 鉄筋コンクリート造一部2階建 日本自転車振興会

(建物面積) 1,999.68㎡ 193,220千円

(定員) 80人 新居浜市

15,000千円

《デイサービスセンターふたば荘》

(建物構造) 鉄骨造平屋建 (補助)

(建物面積) 396.25㎡

(定員) 35人

《在宅介護支援センターふたば荘》

(建物構造) 鉄骨造平屋建

(建物面積) 71.15㎡

国庫補助

44,639千円

県補助

22,319千円

新居浜市

14,870千円

【所在地】 新居浜市船木字元船木甲3101番地1、甲3102番地2、
甲3098番地

【敷地面積】 4,552㎡

《特別養護老人ホームふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 1,903.82㎡

(定員) 29人

(補助)

新居浜市

177,975千円

《ショートステイふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 496.44㎡

(定員) 16人

《デイサービスセンターふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 287.4㎡

(定員) 30人

【所在地】 新居浜市船木字元船木甲2999番地7、甲3001番地3

【敷地面積】 999.37㎡

《グループホームふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 665.85㎡

(定員) 18人

(補助)

新居浜市

52,612千円

2. 職員現員

ふたば荘

(令和4年3月31日現在)

職員部門	特養（ショート含）	デイサービス	支援センター	居宅介護	合計
施設長	1				1
総務部長	1				1
事務員	1<1>				1<1>
生活相談員	4<3>				4<3>
機能訓練指導員	1				1
ソーシャルワーカー			1<1>		1<1>
介護支援専門員	1<1>			4	5<1>
介護部長	1				1
主任介護職員					
介護職員	37(3)【11】				37(3)【11】
介護助手	2【2】				2【2】
医師（嘱託）	3（3）				3（3）
看護職員	6				6
管理栄養士	1				1
調理員	6(1)【1】				6(1)【1】
清掃員	1【1】				1【1】
合計	64(7)【15】<3>		1<1>	4	68(7)【15】<4>
【業務委託】					
運転手					
宿直員	3				3
介助員					
合計	3				3

※（ ） 嘱託 【 】 パート < > 兼務

ふたばの森

(令和3年3月31日現在)

職員部門	特養	デイサービス	ショート	グループホーム	合計
施設長	1				1
事務員					
生活相談員	2<2>	2<1>	1<1>		3<3>
管理者				1	1
機能訓練指導員	1	1			2
介護支援専門員	1<1>				1<1>
介護職員	16(2)【1】<1>	6【1】	7【1】	15【5】	44(2)【8】<1>
医師(嘱託)	3(3)				3(3)
看護職員	3<2>	2<1>	1	2【2】	7【2】<2>
管理栄養士	1				1
調理員	4【1】				4【1】
清掃員	1【1】				1【1】
合計	31(2)<4>【3】	11【1】<2>	9<1>【1】	18【7】	66(2)【12】<4>
【業務委託】					
宿直員	2				2
合計	2				2

※ () 嘱託 【 】 パート < > 兼務

3.令和3年度人事

(令和4年3月31日現在)

	職名	氏名	採用日	備考
採用 20人	介護職員	真木 千恵	令和 3年 4月 1日	荘特養
	介護職員	西原 直美	令和 3年 4月 1日	荘特養
	機能訓練指導員	田坂 比呂人	令和 3年 4月 1日	森デイ
	パート看護職員	小西 裕子	令和 3年 4月 12日	GH
	パート介護職員	松木 八世	令和 3年 5月 1日	GH
	パート介護職員	荒木 美和	令和 3年 6月 7日	GH
	調理員	橋本 聖子	令和 3年 6月 21日	森特養
	パート介護職員	鈴木 節子	令和 3年 6月 28日	荘特養
	介護助手	伊藤 正博	令和 3年 6月 28日	荘特養
	パート介護職員	山内 滢	令和 3年 7月 15日	GH
	介護助手	薦田 和己	令和 3年 10月 2日	荘特養
	介護助手	峯田 久美子	令和 3年 10月 4日	荘特養
	介護職員	丹生谷 彩華	令和 3年 11月 1日	荘特養
	パート介護職員	和田 さやか	令和 3年 11月 8日	森特養
	パート介護職員	岸本 むつみ	令和 3年 11月 8日	GH
	パート調理員	宮内 忠志	令和 3年 11月 22日	荘特養
	調理員	浜田 聖羅	令和 3年 12月 6日	荘特養
	介護職員	上野 茜	令和 4年 1月 1日	GH
	生活相談員	正岡 広行	令和 4年 1月 11日	荘特養
パート看護職員	白石 みどり	令和 4年 3月 1日	GH	

(令和4年3月31日現在)

	職名	氏名	退職日	備考
退職 11人	パート介護職員	石原 恭子	令和 3年 4月 30日	森特養
	調理員	橋本 聖子	令和 3年 10月 1日	森特養
	パート介護職員	山田 節子	令和 3年 10月 31日	GH
	介護職員	久保 麻紀	令和 3年 12月 9日	荘特養
	介護職員	大原 早苗	令和 3年 12月 15日	森特養
	パート介護職員	高岡 享子	令和 3年 12月 30日	荘特養
	調理員	渡辺 佳美	令和 3年 12月 31日	荘特養
	介護助手	峯田 久美子	令和 3年 12月 31日	荘特養
	調理員	一原 朋見	令和 4年 2月 15日	荘特養
	清掃員	矢野 ひとみ	令和 4年 2月 28日	森特養
	パート看護職員	小西 裕子	令和 4年 3月 31日	GH

特別養護老人ホーム
短期入所生活介護事業所
在宅介護支援センター
居宅介護支援事業所

ふたば荘

特別養護老人ホームふたば荘

1. 総務及び経理

総合目標及び課題

法人の5か年計画の課題である持続可能な経営基盤の確立の推進にて、介護記録ソフトの更なる活用と科学的介護の実践の充実に取り組んだ。

また、安定した経営と運営を保つため稼働率の維持と支出管理に努めた。

目標及び課題	成果等
(1) サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護記録ソフト及びL I F Eの活用による科学的介護の実践と充実に取り組み、評価結果による今後の課題把握と介護ケアサービスの改善による質の向上に努めた。 ② 職員個人の通信機器にてオープンチャットを使用し情報の共有と即時の伝達を図り、サービス提供体制の強化を行った。
(2) 持続可能な経営基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> ① 大規模改修計画を視野に入れた安定経営を目指し、月次事業報告により、全職員が意識できるように収入状況の情報発信を行い稼働率の維持を図った。 また、購買担当職員の配置により支出管理に着手した。
(3) 感染症予防対策	<ul style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルスの感染予防対策に注力し、必要な対策用品と衛生用品を不足なく準備した。
(4) 地域福祉サービスの創造と展開	<ul style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルスの感染拡大により、日常生活の制限が発生し生活様式が変化した。地域での活動が再開される兆しが見られ、可能な限り新しい活動に応じた地域との関りを継続出来るよう準備と対応に努めた。

2. 相談及び援助

総合目標及び課題

利用者がその人らしい生活を送れるよう、多職種や家族・地域と連携・協働してサービスが提供できるよう努めた。

目標及び課題	成果等
(1) サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ① 要望のあったご意見箱の運用を見直し、環境整備を行った。

	<p>② 相談・苦情があった際は、速やかに事実確認を行い、経緯の説明を行えた。また、速やかに対応方法を検討し改善に努めた。</p> <p>③ 第三者委員を交えた苦情相談懇親会を、6月に書面開催にて実施した。</p>
<p>(2) 利用者処遇</p>	<p>① 施設行事に関しては、外部からのアプローチは中断することが多かった。希望者が対象になるが、週に1度のカラオケは楽しんで頂けた。</p> <p>② サービスについては、本人・家族の意向に沿ったサービス計画書を作成してサービスの提供を行った。</p>
<p>(3) 稼働率の維持向上</p>	<p>① コロナの影響もあり、申し込み者の総数自体は減少傾向にあり、判定会後の待機者が少なくなった時には、早めに他の申し込み者の意向を確認し、入所調整を行った。</p> <p>② ショートステイは1日平均3.3人(定員4人)の稼働実績となった。</p>
<p>(4) ICT化への取り組み</p>	<p>① 全職員がケア記録システムを活用することで、情報の処理・伝達が早くなった。面会制限が緩和されたら、画像等を交え家族への伝達が、今後の課題となった。</p>

3. 介 護

総合目標及び課題

- ・利用者の生活に負担がない穏やかな生活を守っていくために、職員のチームワークの介護力で他のグループも助け合って協力した。
- ・利用者の日常生活を観察しケアプランを策定するなかで、コロナ禍のため外出支援等ケアプランに影響が出てしまった。

目標及び課題	成果等
<p>(1) 統一した教育 (ストップ自己流)</p>	<p>① 研修に参加したいという職員の意思を尊重して、参加出来る勤務体制を整えた。</p> <p>② OJTとして指導的立場になる職員が、勤務上常時指導できる勤務が取れなかった。このため、指導的職員の養成が、今後の課題となった。</p>
<p>(2) 介護業務の効率化</p>	<p>① ケア記録システムを導入により、入力の内容など職員が積極的にどうしたらよいか案を出して共有することが出来た。</p>

<p>(3) 報連相の充実</p>	<p>② 「できないではなく、まずはやってみよう」をスローガンに取り組みを行った。</p> <p>① 申し送りは、ICTツールを活用し、職員全員でリアルタイムに共有できるようにしたことにより、申し送りに費やす時間短縮しながらも、情報共有することが出来た。</p>
<p>(4) 接遇の改善</p>	<p>① 接遇委員会や虐待防止委員会が中心となって、不適切な言葉や態度について考える機会を作ったり、適切な言葉の啓発活動を行った。</p> <p>② 引き続き率先して挨拶ができるように、新人研修や接遇委員会で啓発を行った。</p>
<p>(5) 安全に安心出来る生活環境作り</p>	<p>① 施設内の整理・整頓・清潔を保つように努めた。介護助手を雇用し、介護助手が手伝って居室の整理整頓を行った。</p>

4. 厨房

総合目標及び課題

・健康で安らぎのあるその人らしい暮らしが送れるよう、適切で安全な食事の提供を実施した。

目標及び課題	成果等
<p>(1) サービスの向上</p>	<p>① ご家族からの持込食品などについては、ご利用者の体調や状態等を配慮した上で、適切な管理を行い誤嚥防止に取り組んだ。</p> <p>② 嗜好調査や聞き取りにより利用者ニーズを把握し、行事に反映出来るように取り組んだ。また、アンコール献立をメインに提供をし、大変に喜ばれた。</p>
<p>(2) 地域貢献</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染症が蔓延し、地域の方々との交流会等が感染拡大防止の観点より中止となり、地域貢献が出来なかった。</p>
<p>(3) 発注の見直し</p>	<p>① 相談員と連携し、適時利用者数の把握をしながら発注数を最適化して食品ロスの削減に努めた。</p> <p>② 品質・価格を考慮し、食材納入業者の見直しを行った。</p>

5. 機能訓練

総合目標及び課題

- ・利用者の心身の諸機能の維持回復を図るため、個別訓練計画書を作成し、各専門職との協働により実践に努めた。
- ・科学的介護実践に基づき利用者の自立支援のため身体機能、認知機能評価を定期的実施し、その実践に努めた。
- ・今年度は、角野地区で介護予防教室を実施し、高齢者の運動について関わりをもった。

目標及び課題	成果等
(1) 利用者の心身の諸機能の維持、改善を目的とした生活リハビリの充実	① 利用者全員の心身の定期的な評価を実施し、ケアプラン策定時に心身の状況から具体的協働内容の提示を行い、身体機能の評価及び認知機能の評価を実施した。 ② 個別機能訓練実施後の中間報告として、3ヶ月ごとに利用者及び家族に対し口頭及び書面で説明を行った。また、ケアマネージャーと協働で状況の確認を行い、継続的に実施した。なお、COVID-19の感染状況に応じて、集団レクを実施した。
(2) 利用者への安全な介助方法、介護者の負担を軽減させる介助方法の指導	① 利用者の身体機能に応じた介助方法の指導、福祉用具の選択をカンファレンス等を通して実施した。介助中における事故は以前よりは減少しているが、発生件数は少なくないため、引き続き指導していくことが課題となった。
(3) 褥瘡予防、改善へのアプローチ	① 褥瘡ハイリスクの利用者に対して褥瘡予防、改善のためポジショニングシートと体位変換表を作成して実施した。以前よりは新規褥瘡発生者が減少しているが、ポジショニングが徹底できていない時もあり、引き続き課題となった。

6. 健康管理

総合目標及び課題

- ・入所者の疾病を理解し、居心地の良い場所を提供しながら、安心して満足な生活が送れるよう嘱託医・病院と連携して、健康状態の維持や早期発見・治療を行い悪化予防に努めた。

目標及び課題	成果等
(1) 日常生活の健康管理及び質の向上	① ケア記録システムが導入されたが、十分な活用には至らなかった。今後、健康状態のデータ化と他職種との共有が課題となった。

<p>(2) 医療業務の見直し・修正</p>	<p>② 春・秋の検診結果・病状の説明を行うよう心がけたが、コロナ禍にて面会の中断もあり、全ての利用者に対して検査結果の報告ができていない現状の中で、今後のICTを活用しての報告が課題となった。</p> <p>① ケア記録システムの導入では、入力のみしか行えていないが、今後、医療業務のマニュアル・記録の方法を見直し、業務の簡素化・効率化が課題となった。</p>
------------------------	---

7. 職員研修参加状況(ふたば荘)

月	日	内容	場所	出席者
6	14~18	認知症介護実践者研修	松山	介護職員1名
	19	介護員養成研修等指導者講習会	松山	介護職員1名
	19~20	介護福祉士養成実習指導者研修	松山	介護職員1名
7	10~11	介護福祉士養成実習指導者研修	松山	介護職員1名
	19	医療的ケア教員講習会	オンライン	看護職員2名
8	7~8	介護員養成研修等指導者講習会	松山	介護職員1名
10	2~3	介護員養成研修等指導者講習会	松山	介護職員1名
	25~29	認知症介護実践者研修	松山	介護職員1名
11	1~2	排せつ支援とノーリフティングケア	松山	介護職員1名
	17	介護技術向上講習会	松山	介護職員1名
	18	介護技術向上講習会	松山	介護職員1名
	25~	全国老人福祉施設大会	オンライン	施設長・他
12	7	「福祉の職場」チームリーダー研修会	松山	介護職員1名
	9~10	全国老協トップセミナー	東京都	相談役1名
	10	社会福祉法人監事監査研修会	オンライン	施設長・総務部長
	21	認知症介護実践者研修	松山	介護職員1名
	23	防災に関する研究・研修会	松山	介護職員1名
1	13	全国老人福祉施設研究会議	オンライン	主任生活相談員1名・他
2	1	介護技術向上講習会	松山	介護職員1名
	2	介護技術向上講習会	松山	介護職員1名
	14	四国老協セミナー	オンライン	施設長
	21	テーマ別研修会「LIFEの導入とこれからの介護現場のあり方」	オンライン	事務員1名・機能訓練指導員
	25	要介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修会	オンライン	介護職員1名
3	11	テーマ別研修会「介護施設における看取りケア	オンライン	看護職員1名

8. 事業実施状況

月	保健衛生	施設管理	施設整備等	職員厚生	その他	
4	/21 職員健康診断・順風会(34名) /27 入居者健康診断(76名) /27 調理員検便(7名)	/8 奉仕デー 暖房停止 倉庫整理 /23		新型コロナウイルス感染症予防 対策の未実施 /6	新人研修 内部学習会	
5	/8 寝具納品 /15 寝具引取 /23 職員検便(61名) /31 調理員検便(7名) コロナウイルスワグチン2回目接種	/14 奉仕デー 消防設備点検 冷房開始 空調設備清掃点検 /16	快決ソフト君導入	/26 避難訓練 /10 はあとねっと発行 /10 内部学習会	はあとねっと発行 内部学習会	
6	/31 調理員検便(7名)	/14 奉仕デー 床洗浄 /28.29	カーテンクリーニング交換 空調機修理	/10 はあとねっと発行 /9 内部学習会	内部学習会	
7	/31 調理員検便(7名)	/14 奉仕デー 受水槽法定検査 /4	事務所空調機更新	/10 内部学習会	内部学習会	
8	/7 寝具納品 /14 寝具引取 /28 調理員検便(7名)	/15 奉仕デー 冷房停止 浄化槽保守点検 /26	リフト浴槽ポンプ更新	/10 はあとねっと発行 /10 内部学習会	はあとねっと発行 内部学習会	
9	/6 職員健康診断・順風会(18名) /21 入居者健康診断(76名) /31 調理員検便(7名)	/20 奉仕デー 浄化槽保守点検 /31	非常用発電機音里	/8 内部学習会	内部学習会	
10	/12 インフルエンザ予防接種(職員60名入居者76名) /30 調理員検便(7名)	/17 奉仕デー 暖房開始 受水槽清掃 /6 浄化槽保守点検 /26 電気設備年次点検 /1	浄化槽ポンプ交換	/10 はあとねっと発行 /13 総合避難訓練 /10 内部学習会	はあとねっと発行 総合避難訓練 内部学習会	
11	/28 調理員検便(7名) /16 結核健診レントゲン撮影(74名)	/15 奉仕デー 床洗浄 /2		/22 法人内実践発表表	法人内実践発表表	
1	/31 調理員検便(7名) コロナウイルスワグチン3回目接種	/26 奉仕デー 消防設備点検 /7	空調機修理	永年勤続者表彰 (25年):1名(20年):3名 (15年):1名(10年):3名	/10 はあとねっと発行 /19 内部学習会	はあとねっと発行 内部学習会
2	/28 調理員検便(7名)	/16 奉仕デー 浄化槽保守点検 /20		/22 内部学習会	内部学習会	
3	/29 調理員検便(7名)	/23 奉仕デー 浄化槽法定点検 /27 浄化槽保守点検	換気扇修理	/10 はあとねっと発行 /30 内部学習会	はあとねっと発行 内部学習会	

9.特養利用者の概要

(1)利用者の状況

令和4年3月31日現在

保険者別入所状況

保険者別	男	女	計
新居浜市	16	57	73
西条市	0	2	2
四国中央市	1	3	4
愛南町	0	1	1
合計	17	63	80

在所期間の状況

期 間	男	女	計	比率(%)
20年以上	0	0	0	0.0%
15年以上～20年未満	0	0	0	0.0%
10年以上～15年未満	0	4	4	5.0%
7年以上～10年未満	1	7	8	10.0%
5年以上～7年未満	1	2	3	3.8%
3年以上～5年未満	3	15	18	22.5%
1年以上～3年未満	7	24	31	38.8%
1年未満	4	12	16	20.0%
合 計	16	64	80	100.0%

利用期間が3年未満の方で全体の58.8%を占め、全利用者の平均利用期間は3.6年となっている。

年齢構成

区分	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計	平均年齢
男	0	2	0	4	6	3	0	1	16	79.8
女	1	0	6	4	10	18	14	11	64	86.8
合計	1	2	6	8	16	21	14	12	80	85.4

①90歳以上の利用者は全体の32.5%を占めており、平均年齢は85.4歳となっている。

②最高齢者は、男性は95歳、女性は100歳で、最も若い利用者は、男性66歳、女性63歳である。

要介護度の状況

〔要介護度〕

	自立	支援	1	2	3	4	5	合計	平均
男性	0	0	0	1	5	7	3	16	3.75
女性	0	0	0	0	17	23	24	64	4.11
合計	0	0	0	1	22	30	27	80	4.04
前年度実績	0	0	0	0	17	32	31	80	4.18

利用者の要介護度は、要介護4・5に認定された方が全体の78.8%を占め、平均要介護度4.04となった。前年度実績4.18からは少し下がっている。

(2)入退所状況

利用者状況

〔月別新規入所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	1	0	2	1	0	1	0	0	0	1	0	6
女	3	1	1	2	1	1	0	2	3	2	2	0	18
計	3	2	1	4	2	1	1	2	3	2	3	0	24

〔入所前住居〕

区分	在宅	病院			介護施設			その他施設	合計
		一般病棟	精神病棟	療養病棟	介護療養施設	老人保健施設	特別養護老人ホーム		
男	3	4	2	2	0	1	0	4	16
女	28	7	11	4	0	4	1	9	64
計	31	11	13	6	0	5	1	13	80

全利用者のうち在宅からの入所者が38.8%、次いで病院から37.5%となっている。

退所者状況

〔月別退所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	1	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	6
女	3	2	0	2	1	1	0	3	5	0	1	0	18
計	3	3	2	3	1	1	1	3	5	0	2	0	24

24名の方が退所となり、死亡退所が23名となっている。

1名は長期入院により退所になっている。

(3)日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活自立度（寝たきり度）

[利用者80名]

ランクJ 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
ランクA 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	7
ランクB 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	7
ランクC 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	2
	2 自力では寝返りもうたない。	29

寝たきりに当てはまるランクB・Cの利用者の方で全体の80%を占め、重度化が認められる。

認知症老人の日常生活自立度判定

[利用者80名]

項目	痴 呆 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	1
ランクI	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	3
ランクII	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	9
	b 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	14
ランクIII	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記IIIの状態が見られる。	19
	b 夜間を中心として、上記IIIの状態が見られる。	6
ランクIV	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	21
ランクM	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	7

80名の内、ランクIII以上に位置づけされる利用者の方は66.3%となっている。

(4) ケアプラン実施状況

〔ケアプラン：立案状況〕

項目	自立支援	日常生活援助	離床	医療面	運動	褥瘡 ハイリスク	排泄	声かけコミュニケーション	整容	転倒予防
人数	12	16	5	14	4	4	5	11	3	6

①個々の内、最も重要と思われるもの各1を挙げている。

②個々のケアプランについては、包括的自立支援プログラム方式により6ヶ月毎及び状態に応じケアカンファレンスにて見直し、サービス計画に基づいて毎日実践しその状況を記録している。

(5) 利用者医療状況

疾病状況

順	疾病名	人数	順	疾病名	人数
1	アルツハイマー型認知症	25	14	レビー小体型認知症	4
2	脳梗塞後遺症	9	15	高次脳機能障害	1
3	糖尿病	5	16	混合型認知症	2
4	統合失調症	4	17	頸椎症性脊髄症	1
5	脳出血後遺症	3	18	心室正期外収縮	1
6	認知症	4	19	躁鬱病	1
7	パーキンソン症候群	3	20	頻脈性心房細動	1
8	小児麻痺	3	21	混合型認知症	2
9	慢性心不全	3	22	うっ血性心不全	1
10	老人性精神病	3	23	不整脈	1
11	高血圧	1	24		
12	関節リウマチ	1	25		
13	肥大型心筋症	2	合計		81

施設利用者年齢が高齢化していることに加え、認知症・脳血管障害が半数以上を占め、自立度が低く介護度が上がっている。複数の慢性疾患を持っている利用者の入所が増え入院の長期化となっている。

受診状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
実人数	8	8	9	##	13	##	9	13	10	9	6	16	125	10.4	0.34
延人数	9	8	9	##	15	##	10	13	12	11	6	20	138	11.5	0.38

利用者・ご家族の要望での医療機関受診は、積極的に行っている。

入所前より通院されていた病院への定期受診の方が増えている。

急変による心疾患・骨折等は、当施設で対応困難である為、医療機関での治療依頼となるため、受診・入院の流れとなるのが毎年同様にあった。

入院状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均 入院人数
実人数	1	5	4	5	7	5	3	4	5	6	6	4	55	4.6	0.15
延日数	24	62	106	77	65	79	40	40	66	103	112	67	841	70.1	2.3

慢性疾患・既往があり入院を繰り返したり、入院後の症状悪化による長期化、入院後死亡退院・退所となられる方もいた。

精神科往診

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
実人数	14	15	15	14	15	15	16	17	18	16	18	17	190	15.8
延人数	24	24	26	26	26	27	28	30	32	29	33	31	336	28.0

入所後、認知症で周辺症状が出現し、医師に相談・診察を受け内服等の治療を受けることや、入所前より精神科に通院しており継続となられる方も増加した。

歯科往診

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	3	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	16	1.3
実人数	12	7	3	7	7	2	5	8	7	9	5	1	73	6.1
延人数	15	9	3	7	7	2	5	8	7	9	5	1	78	6.5

義歯の不具合、歯の劣化による落歯・割歯による受診が多い。歯のケア重要

(6) 身体拘束実施状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1. 車椅子拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. チューブ拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. つなぎ服拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. ミトン型手袋による拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

身体拘束ゼロについては、施設全体で取り組んでおり、身体拘束防止委員会を設置している。現在、身体拘束者はいない。今後も、出来る限り見守り強化の中で過ごして頂き、身体拘束0を継続して行く。

(7) 機能訓練実施状況

〔個別訓練実施内容〕

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
運動療法	実人数	35	32	31	34	32	38	37	43	34	35	28	407
	延人数	7	77	77	78	78	78	77	78	78	78	76	860
歩行訓練	実人数	7	7	5	6	3	7	5	5	4	4	5	62
	延人数	11	12	12	12	12	14	14	14	14	13	13	154
物理療法	実人数	4	4	4	4	3	3	2	2	4	3	2	37
	延人数	5	5	5	5	5	5	4	4	4	5	5	57
ADL訓練	実人数	15	11	10	12	7	13	11	10	11	11	11	132
	延人数	41	41	42	41	40	42	40	40	40	39	40	485

・訓練内容として

プラットホーム、ベッドサイドでの徒手的な運動療法、歩行訓練、物理療法、ADL訓練を実施している。尚、個別重視で、個別訓練の時間、ゆとりある対応で取り組んでいる。また褥瘡予防のため褥瘡リスクが高い利用者へのポジショニングを他職種と連携し情報を共有している。

(8)グループケア実施状況

利用者のグループ編成（すみれグループ：28名 たんぽぽグループ：24名 ひまわりグループ：28名）は例年と変わりなく慣れた職員と穏やかに施設生活を送って頂き、利用者との多くの関わりを持つことで家庭的な雰囲気作りに努めた。

共通行事実施状況

実施日	行事内容	場 所	グループ別 参加利用者数			
			すみれ	たんぽぽ	ひまわり	計
8/5	夕涼み会	ふたば荘中庭	4	15	14	33
8/19	お盆の法要	デイサービスセンター	8	14	13	35
9/23	敬老会	デイサービスセンター	12	19	19	50
9/16	観月会	デイサービスセンター	17	19	19	55
10/21	運動会	ふたば荘中庭	14	18	15	47
合 計			55	85	80	220

クラブ活動 実施状況

(お誕生会)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
全体	5	5	5	4	4	5	6	4	8	14	6	10	76
合計	5	5	5	4	4	5	6	4	8	14	6	10	76

(ホーム茶屋)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
すみれ	24	20	24	22	22	20	22	20	24	26	20	22	266
たんぽぽ	36	32	32	30	32	30	30	32	30	30	28	26	368
ひまわり	36	33	34	36	38	36	38	36	38	36	32	36	429
合計	96	85	90	88	92	86	90	88	92	92	80	84	1063

(どれみ広場)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
すみれ	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
たんぽぽ	0	0	0	0	0	0	0	8	16	0	0	0	24
ひまわり	0	0	0	0	0	0	0	12	10	0	0	0	22
合計	0	0	0	0	0	0	0	23	27	0	0	0	50

(カラオケ)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
すみれ	16	25	15	12	12	15	16	20	20	12	16	20	199
たんぽぽ	4	8	15	20	8	10	8	12	10	12	4	5	116
ひまわり	32	28	25	20	28	30	20	28	25	28	20	25	309
合計	52	61	55	52	48	55	44	60	55	52	40	50	624

《すみれグループ》

(入浴実施状況： 2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	118	115	133	130	151	135	153	152	157	145	147	175	1,711
座位入浴	36	32	36	32	36	32	36	36	32	32	40	44	424
自立補助入浴	9	8	9	16	13	24	27	27	24	26	24	27	234
自立入浴	9	8	9	8	9	8	9	6	0	0	1	9	76
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	172	163	187	186	209	199	225	221	213	203	212	255	2,445

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出(ドライブ・外食含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設内行事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	10	0	23
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	10	0	23

《たんぽぽグループ》

(入浴実施状況： 2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	36	33	35	36	36	33	35	36	40	45	35	43	443
座位入浴	36	40	45	45	45	40	54	54	43	46	40	44	532
自立補助入浴	9	8	9	9	9	8	9	16	28	17	16	17	155
自立入浴	27	32	36	36	36	37	33	36	36	45	50	61	465
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	108	113	125	126	126	118	131	142	147	153	141	165	1,595

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ドライブ(外食を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設内行事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	16	0	34
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	16	0	34

《ひまわりグループ》

(入浴実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	99	99	88	99	104	108	99	107	111	125	112	126	1,277
座位入浴	36	36	32	36	36	36	32	36	36	36	32	36	420
自立補助入浴	27	36	32	27	36	36	32	36	36	36	32	43	409
自立入浴	27	27	24	27	27	27	26	27	27	27	24	27	317
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	189	198	176	189	203	207	189	206	210	224	200	232	2,423

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ドライブ(お買い物・外食・映画を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設内行事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	0	40
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	0	40

給食栄養状況

栄養ケアマネジメントの実施により、一人ひとりの栄養ケアプランが十分に実施されるよう、他職種協働で取り組みを行い、利用者の個別性に対応している。

栄養ケアマネジメント

月	ケアマネジメント実施数 (人)	低 リスク	中 リスク	高 リスク	合 計
4月	78	44	31	3	78
5月	77	49	25	3	77
6月	77	38	30	9	77
7月	74	42	29	3	74
8月	76	47	26	3	76
9月	77	44	26	7	77
10月	78	49	26	3	78
11月	75	48	24	3	75
12月	74	48	25	1	74
1月	76	53	21	2	76
2月	78	52	22	4	78
3月	76	52	22	2	76
合 計	916	566	307	43	
月平均	76.3	47.1	25.6	3.6	

栄養ケアマネジメントによる一人ひとりへの細かいプランを立て実施しています。1ヶ月に5%以上の体重減少があった方又は、血液検査で血清アルブミン値3.0ml/dl以下の方は、高リスクと定義され、栄養リスクは、高リスクとなります。高リスクの方の詳細は、血清アルブミン値が基準値に達していない方が殆どでした。今後もご利用者様のご意見を傾聴し、個々人に合ったケアマネジメントを実施致します。

食事形態	主食形態					副食形態				流動食
	御飯	お握り	全粥	ゼリー 粥	ミキサー 粥	普通菜	ソフト 食	ゼリー 食	ミキサー 食	流動食
ご利用者数 (人)	33	6	23	15	1	34	26	17	1	2

食事形態において、主食（御飯）が食べられる方は全体の41%で、普通菜を食べられている方は42%です。58%の方は、ソフト食、ゼリー食、ミキサー食等に加工が必要です。ご利用者様の体調や嚥下機能状態は、日々刻々と変化し、一人ひとりの体調に合わせた食事の提供が出来る様に気を配っています。食事摂取量が低下した場合は、食事量を半量に落とし不足分を栄養補助食品を使い、栄養を補充しています。これからも、穏やかな施設生活が送れるように食事やおやつ、行事食の提供を致します。

行事食の献立状況

月 日	献 立
5月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちらし寿司・すまし汁（たけのこ）・鱈の西京焼き・焼き空豆 ・ 小松菜の卵とじ・揚げ出し豆腐 ・ フルーチェ
6月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変わりご飯のおにぎり（わかめご飯・ゆかりご飯・鮭ご飯） ・ コンソメスープ・唐揚げ・茄子の揚げびたし・餃子・じゃこ天 ・ 胡瓜の糍漬け・メロン
7月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素麺・釜めしのおにぎり・野菜の天ぷら（茄子・おくら・舞茸 ・ エビのフリッター・カリカリチーズ）胡瓜の酢の物 ・ だし巻き卵・天の川ゼリー
8月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鰻の蒲焼丼・かきたま汁・茄子の煮びたし・冷奴 ・ 野菜の浅漬け ・ スイカ・水羊羹
9月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご飯（わかめご飯・混ぜご飯）・芋炊き（うどん入り） ・ 茄子の酢味噌和え ・ ぶどう
10月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ おにぎり・焼きそば・フランクフルト ・ 天ぷら（ポテト・サツマイモ・舞茸・キス・エビ） ・ あんぱん・野菜ジュース・みかん
11月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご飯・鮭のちゃんちゃん焼き・さつま芋の甘煮・湯豆腐 ・ 卵焼き・大根なます・ほうれん草の胡麻和え ・ ふたば荘蜜柑を使ったゼリー
12月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 握り寿司（たまご・鮭・帆立・えび・あなご・マグロ・鯛） ・ 茶碗蒸し・ほうれん草の白和え・フライドポテト・エビフライ ・ ロールケーキ
1月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご飯・寄せ鍋（豆腐・つみれ・白菜・葱・人参・春菊・鶏肉 ・ ずわいがに）・焼き鳥・紅白なます・フルーツ（いよかん） ・ 焼き芋・季節の和菓子
2月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻き寿司・いなり寿司・刺身盛り合わせ（帆立・マグロ・） ・ メンチカツ・イカフライ・ポテトサラダ・高野豆腐の煮しめ ・ サツマイモの甘煮・紅白饅頭・甘納豆
3月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 握り寿司（たまご・鮭・帆立・えび・あなご・マグロ・鯛） ・ 茶碗蒸し・鮭の塩焼き・牛肉コロッケ・イカのリングフライ ・ 白菜の煮びたし・金時豆・お好み焼き・焼き芋・プリン・リンゴ

今年、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、自室での開催や規模縮小等、いつもとは違う形になりましたが、ご利用者様のご意見をお伺いし、メニューに反映を致しました。『また、食べたい。』気持ちを大切に、継続を致します。今後共、宜しくお願ひ致します。

10. 指定居宅介護支援

・住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域のニーズに応じたサービスの充足と利用の支援を行った。関係機関との連携を図り、必要とされるサービスを過不足なく提供できるようサポート体制を整えた。

目標及び課題	成果等
(1) 質の高いサービスの提供	① コロナ禍という特殊な状況で利用者や家族への豊富な情報提供により、自立支援に向けた生活支援サービスが包括的に提供される居宅サービス計画を多角的に提案した。 ② ケアマネージャーの資質向上のため、地域の社会資源情報を積極的に収集した。開催できた研修会には参加し、リモート研修も引き続き取り入れた。
(2) 地域の医療・介護との連携の推進	① 医療機関への訪問ができなかったため、頻回に連絡をとり、入退院時の調整をスムーズに行った。 ② コロナ禍で在宅療養を選択する人が増えたため、多職種協働によりネットワークを広げ、サービスを一体的に提供できるよう支援した。 ③ 地域が必要としているサービスを見極め、適切な情報の収集と発信を行った。
(3) 利用しやすい事業所の運営	① 必要な時に安心して相談できる事業所になるよう、職員の人材育成に努めた。 ② 職員のコミュニケーション能力、ケアマネジメント能力の向上を目指した。 ③ 利用者がいつでも相談できるよう、ケアマネージャーへの連絡体制を整えた。

11. 在宅介護支援センター

・新居浜市地域包括支援センターが行う総合相談支援業務及び権利擁護業務等に協力した。

・在宅介護支援センターは次に定める事業を行った。

目標及び課題	成果等
(1) 相談体制の整備	① 地域の支部社協、船木校区民生委員の定期会議に参加して、相談内容による関係機関の連携体制について、調整を実施した。

<p>(2) 地域課題の取組み</p>	<p>① 包括コーディネーター担当者と生活支援体制整備事業（第2協議体）の取組みとして地域課題の抽出と働きかけを地域住民の会合（民協会、支部社協）に参加して調整を実施した。法人による公益事業の内容の検討を含め、引き続き意見集約を行った。</p>
<p>(3) 基本業務</p>	<p>延相談件数182件 （内訳：電話108件・訪問 70件 来所 4件・その他 0件） 「認知症サポーター養成講座補助」 講師6回、演者6回 泉川見守り・SOSネットワーク協議会：4回 一般高齢者介護予防教室開催状況（上部東教室） 期間：令和3年7月～令和4年1月/全13回開催 場所：角野公民館を使用。 参加者数：20名（定員25名）</p>

12. 委員会活動

目標及び課題	成果等
<p>【環境委員会】 利用者・職員が快適に生活出来る空間を提供できるよう、施設内外の環境整備に努めた。</p> <p>【サービス向上委員会】 施設生活や利用者個人に関わる課題について多職種で協議し、サービスの質向上を図った。</p> <p>【感染委員会】 感染予防に努めた。</p>	<p>① 月1回奉仕デイを実施し、施設内外の環境美化に努めた。奉仕デイの日を軸に1週間を作業週間とし各部署で決められた場所の清掃を実施した。また、除草作業以外の清掃については、現状通り男性職員を中心に奉仕デイの日に実施した。</p> <p>② 花壇については、担当を決めずに定期的に作業週間中にで植木の剪定を実施した。</p> <p>① コロナ禍の影響で、施設外での行事が実施出来なかった。今後は、コロナ禍で、どのように施設行事及び個別外出等を再開していくのが課題となった。</p> <p>② 委員会で、サービス内容及び各行事や職種毎の課題等を協議した。また、協議した内容が十分に伝達出来ていないことがあり、今後の課題となった。</p> <p>① 学習会や日々の注意喚起を行い感染標準予防策の徹底を行った。また、職員の手洗い・体調チェックを行い、インフルエンザ・コロナ等の感染なく過ごす事が出来た。</p>

<p>【給食委員会】 食事を通して、利用者の健康保持と生活の楽しみを提供できる活動に努めた。</p>	<p>② 職員・利用者の体調管理を行い、異常の早期発見・感染兆候ある場合の早期対応に努めた。また、健康状態握のため、毎日の検温・健康チェックを行った。</p> <p>① 行事食のメニューは、食べたい物を聞き取り、メニューに反映することで、利用者の満足を得られるように努めた。</p> <p>② 毎月、体重・体調・嗜好の変化に伴い、個々の食事形態の検討を行った。また、高リスク者に対しては、個々の問題点を抽出して対応に努めた。</p>
<p>【広報委員会】 広報紙を発刊し、施設活動の啓発と理解に努めた。</p>	<p>① 契約者・地域・関係機関等を対象に、利用者の生活の様子を主な内容として年6回の広報紙を発刊し、施設の活動内容の理解促進に努めた。</p>
<p>【研修委員会】 施設内研修を計画し実施した。</p>	<p>① 介護サービス技術の基礎力と応用力の向上を目指して年12回の内部学習会を実施し、延べ496名の参加があった（平均参加人数41.3名、82.0%）。感染予防対策にて、分散開催や動画研修、オンライン参加など、実施形態を模索しながら実施し、昨年度より参加率が向上した。また、不参加者には動画視聴後のレポート提出を実施し、学習の共有が図れた。</p>
<p>【事故防止委員会】 介護事故の予防・減災に努めた。</p>	<p>① 介護事故再発防止のため、統計データを基に各グループで傾向分析を行い、具体的に対策を検討した。</p> <p>② 誤薬・誤配膳による事故に対しては、配膳時及び与薬時に声出し確認の実施を行うよう徹底した。</p> <p>③ ベッドからの転落するリスクが高い利用者に関しては、畳部屋を設け転落の予防に努めた。</p> <p>④ 原因分析ため、利用者のADLの介護量等の詳細を記載するようにした結果、事故原因が特定しやすくなり、対策がより具体的に行えるようになった。</p>
<p>【接遇委員会】 施設にかかわるすべての人が心地よく過ごせるように、言葉遣い・態度について見直し</p>	<p>① 「いいこと探し」で他者の言動から自己を振り返る機会を作った。</p> <p>② アンケートをもとに自己評価表を作成し、自己評価と同時に他者評価も行った。</p> <p>③ 月間目標を啓示し、接遇態度の意識付けを行った。</p>
<p>【褥瘡委員会】 褥瘡が発生しないよう重点的に取り組んだ。</p>	<p>① 褥瘡予防のために、栄養状態、皮膚観察を行い、異常がある時は医務に報告し、褥瘡リスクに応じて、エアマットやナーセントパットの見直しを行い悪化防止に努め、早期治癒に至った。</p>

<p>【排泄委員会】 専門職と連携し、排泄動作の自立と、安全で気持ちのよい排泄を目指した。</p>	<p>②看取りの方で褥瘡発症があった。看取りの方は治癒が難しいので、その後は皆で協力し合い発症しないように取り組んだ。</p> <p>①他職種連携のもと、利用者それぞれにあった排泄支援の仕方について検討した。</p> <p>②下肢に障害がある方でもトイレでの排泄を希望されている方についてはスカイリフト等、福祉用具を使用する事で負担無く排泄が出来るよう支援した。</p> <p>③オムツ交換で対応されている方については陰部洗浄を行う事で皮膚トラブルの予防に努め、その人にあったオムツを選択する事でオムツによる不快感の軽減に努めた。</p>
<p>【看取り委員会】 利用者やご家族の思いに寄り添い、命に向き合い、最期までその人らしい暮らしを支えられるよう努めた。</p>	<p>① 利用者が最期までその人らしく過ごせるように、医師、家族、多職種での看取り介護カンファレンスを行い、病状説明すると共に家族には作成した看取りについての冊子を渡し、情報を共有したうえで、利用者本人の意思ならびに家族の意向を尊重しながら看取り介護を行うことが出来た。 (看取りの実績) 看取り対応利用者 11名</p>
<p>【喀痰吸引委員会】 喀痰吸引を安全に実施できるように努めた。</p>	<p>① 吸引必要者のピックアップを行い、家族に吸引の同意をもらい、一覧表を作成して吸引必要者の把握を行った。</p> <p>② 必要に応じてマニュアルの見直しを行った。</p>
<p>【身体拘束防止委員会】 身体拘束の弊害を理解し、利用者の尊厳と安全が確保出来るよう努めた。</p>	<p>① 小さいことでも話し合っ、どのようにすれば拘束をしないで良いか代替方法を考え拘束防止に取り組んだ結果、身体拘束は行わなかった。</p>

特別養護老人ホーム
短期入所生活介護事業所
デイサービスセンター
グループホーム

ふたばの森

特別養護老人ホームふたばの森

1. 相談及び援助

総合目標及び課題

地域に生じている課題に向きあい、法人の理念である「愛ある安心、感じる」を実感できる福祉サービスの拠点づくりを行った。また、全部署、関連委員会において感染症・災害に備える計画の策定及び見直し等について取り組んだ。

重点目標及び課題	成果等
(1) 稼働率の維持と入所事前準備の更なる強化	① 年間平均稼働率は94.7%となった。入院に伴う空所が516日と昨年度と比較して入院者が多かったが、退院許可が出た際には、速やかな状態確認と部署間の情報共有を行いスムーズな退院・再入所を行うことが出来た。 ② 入退所件数は7件あり、入退所による空床は年間45日(平均6.4日)となり、目標としている7日以内の入所調整を行った。利用者の状況に応じて、待機者の調整・面接を行うことが出来た。
(2) 地域福祉サービスの創造と展開	① 常設移動販売の継続をしながら、希望する地域住民に行う買い物支援等、これまでの制度にとらわれないインフォーマルな新しいサービスを移動販売を運営している就労継続支援事業所と連携を密にして行った。
(3) 介護ロボット、ICT等の活用	① 令和4年度にスカイリフト導入するために、介護ロボット導入支援事業補助金の申請準備を行った。

2. 介護

総合目標及び課題

サービスの質を担保するために、人材確保と、自律した職員の育成が課題となっており中長期的な人材確保、育成策を具体的に協議し実施しました。また、働きやすい環境づくりや、現員での勤務体制強化に取り組みました。

重点目標及び課題	成果等
<p>(1) 個別ケアの更なる強化</p> <p>(2) 認知症ケアの教育、人材育成、勤務体制強化</p> <p>(3) ユニットケアの環境づくりの見直し</p> <p>(4) 自然災害や感染症の対応</p> <p>(5) ICTの導入</p>	<p>日中の個々の生活リズムや要望（いつ起きるか、何を飲みたいか等）を大切にし、選択して頂き出来る限りそれに応えるられるよう対応を行った。</p> <p>① コロナ禍であったため、外部研修等の参加は十分に行えなかった。</p> <p>② 夜勤帯では、他ユニットと協力し合い利用者が安全に過ごせる体制を整えることが出来たが、柔軟な勤務体制の構築には至らなかった。</p> <p>① リビングに季節の花を飾ったり、メダカを飼うなどし、利用者が落ち着いて生活出来る環境づくりを行った。</p> <p>② 期間は限られたが、利用者と家族と一緒に居室で過ごすことが出来るよう支援した。</p> <p>③ 職員が利用者の横に座り、一緒に談笑することで自然な笑顔を引き出すことが出来た。</p> <p>① 排泄ケア用品の備蓄を継続し行った。</p> <p>② 面会については、新型コロナの感染症の状況に応じて法人独自の段階別指標に基づき、面会支援を行った。また、看取り対応時は、別途入室経路を確保してご家族と過ごせる時間を取る事が出来た。</p> <p>① ケア記録システムが導入され、記録などの効率化が図れた。また、リアルタイムで情報共有を行えるようになった。</p>

3. 厨房

総合目標及び課題

満足される食事提供と個人毎の栄養管理の充実に取り組みました。また、食に関する事故防止に努めた。

重点目標及び課題	成果等

(1) 栄養ケアマネジメントの実践	① 利用者毎の栄養ケア計画により、栄養改善に取り組み健康増進を図った。また、多職種で協議し経口摂取維持に取り組んだ。
(2) 食事の楽しみ	① 食事が楽しめるよう、地元で採れた旬の食材を使い、昔懐かしいメニューで行事食を提供した。
(3) 衛生管理、アレルギー対策への強化	① HACCPに準じて、食中毒予防と調理室内・調理器具の衛生管理及び、体調管理と手指衛生の徹底に努めた。 ② アレルギーの発生を防ぐために、ダブルチェックを行いました。

4. 医務

総合目標及び課題

利用者との日頃のコミュニケーションを大切にしながら、安全にかつ穏やかにお過ごしいただけるように、関係職種と連携をはかりながら生活支援を行いました。また、感染症予防・事故防止等の取り組みを継続しながら、様々な研修に参加し、最新の知識や技術を習得によりケアの向上に努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 穏やかな生活への取り組み	① 言葉使いに配慮しながら、利用者、家族、第三者に不快感を与えず安心して頂けるような対応を目指し、利用者への説明や処置時は丁寧に笑顔で安心出来る対応を心がけた。 ② 利用者の体調不良時や看取り時の説明など、家族が少しでも不安を軽減出来るよう心がけ「よかった」という発言も聞かれたことから、良い対応が出来たと思われた。 ③ 利用者の異常時は、早期に対応し施設での採血や点滴、また、受診対応に努め苦痛の緩和に努めた。
(2) 感染予防、事故防止に向けた取り組み	① 感染防止や事故防止等内部研修を行い、知識の共有自己研鑽に努めた。 ② コロナウイルス流行もあり、施設での基本的標準予防策の徹底に努め、早期発見できるように体温4

	<p>検を実施した。また、環境整備の徹底に努め、本年度はコロナウイルス、インフルエンザ等感染症は発生しなかった。</p>
--	--

5. 機能訓練指導員

総合目標及び課題

利用者の健康寿命を延ばす事を目標に「既存機能の維持」と「新たな自立動作の構築」に努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) ADL向上への取り組み	<p>① 個々の病歴、身体状況、ADLを把握して、リハビリ計画を立案・実施した。</p> <p>② 個々の利用者に応じて、歩行訓練・立ち上がり訓練・移乗動作などの訓練を行い、ADLの維持・向上に努めた。</p>
(2) 関節拘縮と褥瘡予防への取り組み	<p>① 介護職員と利用者の情報共有を行い、ポジショニング指導や訓練計画の見直しを行った。</p> <p>② 内出血の起こりやすい利用者に内出血ノートを作成し、現状把握と再発防止に努めた。</p> <p>③ 管理栄養士と連携し、食事量と体重の推移を把握して訓練内容に活用した。</p>

6. 短期入所介護事業所 (含 介護予防短期入所介護)

総合目標及び課題

利用者が在宅において日常生活を継続することが出来るよう、在宅介護では不足するケアを職員が行い、利用者の心身のケアとご家族のレスパイト（休息）として身体的及び精神的負担の軽減が図られるよう努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 在宅生活を継続する為のケアの推進	<p>① 利用者それぞれの情報を職員間で把握・共有して、個々に合わせたケアをすることにより在宅生活が維持出来るよう支援した。また、ご家族のサポートやレスパイトとしての役割を果たすことにより、住み</p>

	慣れた地域・自宅での生活を長く続けられるよう支援した。
(2) 認知症ケアへの対応	① 認知症に関する研修等を通じて介護職員の専門性や意識を高めた。
(3) 居宅事業所との連携	① 居宅事業所との連携は密に取りあったが、稼働率は84.4%となり、前年度の稼働率88.4%を上回ることが出来なかった。
(4) 意識改革と資質の向上	① 職員一人ひとりの専門性を高めるために、研修の参加や介護福祉士や喀痰吸引の資格取得することで知識、技能の向上が出来た。

7. 通所介護事業所 (含 介護予防通所介護)

総合目標及び課題

利用者の意思、人格を尊重し、利用者の立場になって、サービスの提供に努めた。感染対策を今まで以上に強化し、利用者が安全で、安心して利用できるよう努めた。家族や地域の結びつきを大切に、運営を行った。

重点目標及び課題	成果等
(1) 自立に向けた支援	① 出来る限り、一人ひとりのニーズに応えようとしたが、コロナ禍の影響もあり十分に要望に応えることが出来なかった。
(2) ICTの取入れ	① ケア記録システムを取り入れ記録などの業務の簡素化を図ったが、全職員が操作等を十分に習得することが出来なかった。また、記録業務を行いながら利用者の見守りを両立することが困難で、今後の課題となった。 ② 利用者との関わり時間を増やすことが十分に増やすことが出来ていないので、今後の課題となった。
(3) ご家族との関係の確立強化	① 送迎時にお会いする家族と交流を図り、悩み事や疑問に思われることについて、送迎時にその都度対応し改善対応を行った。また、お会い出来ないご家

(4) アウトリーチへの取り組み	<p>族については、手紙や電話連絡で対応した。</p> <p>① 実費でのサービスを検討したが、ポイント制を導入し洗濯サービスを実施した。また、延長サービスについては実施が出来なかった。</p>
------------------	---

健康長寿地域拠点作り

令和3年度は、新たに1拠点を開設。初期支援1拠点、継続支援16拠点。2拠点で1年半の指導を終了した。新型コロナウイルス感染予防のため、開催できずに指導が長引くことがあった。

■担当自治会一覧

●初期支援拠点

- ・吹上自治会（令和4年8月終了予定）
- ・三軒屋自治会（令和5年3月終了予定）

計2拠点

●初期支援終了拠点

- ・林下原自治会・道面自治会 計2拠点

●継続支援拠点

下泉久門自治会・七宝台自治会・城主自治会・船木上原自治会・北内ハイツ本郷自治会・長野自治会・北内中自治会・岸の上自治会・西蓮寺自治会
高祖自治会・元船木自治会・西喜光地上組自治会・林下原自治会・道面自治会
喜光地西町自治会 計16拠点

一般高齢者介護予防教室（元気もりもり教室）

参加者の日常生活上の課題を解決するために、運動機能向上、栄養改善、口腔機能向上、認知機能改善、セルフケア能力・ソーシャルスキルの向上プログラムを複合的に実施し、生活機能の改善を図ることを目標に13回シリーズで教室を開催した。

7月7日~1月19日 毎週木曜日 13:30 ~ 15:30

船木公民館にて実施。参加者20名。

8. 委員会活動計画

重点目標及び課題	成果等
<p>【拘束委員会】 「身体抑制廃止・ふたばの森宣言」に基づき継続して取り組んだ。</p> <p>【研修委員会】 事業計画に準じた研修を行いサービスの向上に努めた。</p> <p>【安全対策委員会】 転倒・転落による「重傷事故ゼロ」に取り組んだ。</p> <p>【在宅委員会】 グループ内の居宅、デイ、ショートで情報共有を行いながら稼働率向上に取り組んだ。</p> <p>【給食委員会】 食の安心と満足をお届けしながら事故防止にも努めた。</p>	<p>① 身体拘束等の適正化のため定期的に研修を実施した。定期的な検討会を三ヶ月に一度行い、身体拘束ゼロの達成が出来た。</p> <p>① 法令や運営基準に基づく必須研修を中心に、全職員対象の研修を実施した。 ② 必要に応じ職員の要望を取り入れた内部研修やその時の情勢に合った内部研修を行った。</p> <p>① 新居浜市役所への事故報告・・・5件 東予地方局への事故報告・・・1件 (内訳) 転倒による骨折・・・2件 転落による裂傷・・・1件 誤薬・・・1件 介助中の怪我・・・1件 重大事故を未然に防ぐことが出来なかった。</p> <p>① ショートステイ、デイサービスの問題点や稼働状況などを、担当相談員とふたば荘居宅介護支援事業所職員と共に、利用者や家族、他の居宅介護支援事業所に選ばれる事業所として、必要なことを話し合う場を設け、情報を共有し円滑な運営が出来た。</p> <p>① 毎月の給食委員会のほかに、利用者や職員の意見を参考にし食事内容の充実を図った。また、季節感のある行食事の提供を実施した。</p>

<p>【褥瘡委員会】 多職種で連携して予防と早期対応に努めた。</p>	<p>① 褥創者は2名だった。 1件目は、ほぼ毎日をベッド上で過ごし、自力での体位変換が困難にて臀部に褥瘡発生。皮膚科受診を行い、積極的に体位変換を行い再発防止に努めた。 2件目は入院中に仙骨部に褥瘡発生。指示通りに処置を実施したが、その後再入院となった。</p> <p>② 褥瘡発生には至らなかったが、皮膚トラブルの発生者が数名あった。その都度、保湿や保清を実施し早期対応に努めた。</p>
<p>【口腔ケア委員会】 専門家の指示の下、適正なケアに取り組んだ。</p>	<p>① 月2回以上の歯科医師と歯科衛生士による専門的口腔ケアの実施を通じて、治療が必要な利用者に関して、本人や家族の意向を確認しつつ対処が行えた。また、介護職員から発信される利用者の口腔内の問題点を歯科医師、歯科衛生士へ連絡し、治療や問題点の解決に繋げることが出来た。</p>
<p>【看取り委員会】 利用者や家族の想いに寄り添いながら最期の時まで穏やかに過ごせるように努めた。</p>	<p>① 3名の看取り対象者がいたが、家族に満足してもらえる看取り介護を行えた。コロナ禍ではあったが感染予防対策に努め、出来得る限り家族に傍に居ていただけた。また、ご家族との連絡相談を密にし出来る限り本人、家族が望むサービスの提供を行った。</p> <p>② 食事摂取が難しい状態であっても、本人に食べたい意思があり、家族が同意した場合は、嗜好品を無理しない程度に形状を工夫して、看護職員、家族立ち合いの下、提供を行った。</p>
<p>【感染対策委員会】 年中を通しての感染症対の予防対応に努めた。</p>	<p>① 食中毒や感染症が流行する時期を想定して、事前に委員会を開催し対応策を講じた。また、新型コロナウイルスの対応を、定期の委員会及び臨時委員会を開催し、予防に努めた。</p>

<p>【入浴委員会】 定期的な開催をもち環境整備に努め、利用者の全身の状態の情報を共有し細かなケアが出来るよう努めた。</p>	<p>① 入浴の度に手足の爪が伸びていないか確認を行った。 ② 職員間で利用者の怪我等の状態を把握し、傷が増えていないかを確認した。</p>
<p>【排泄委員会】 排泄、排尿の管理は基よりコストを考えた活動を行った。</p>	<p>① 排泄介助時には皮膚観察を行い、褥瘡や皮膚の爛れのある方は医務との連携を取り、早期対応処置を行った。 ② ケア用品の見直しを行い不要な使用を減らすことでコストの削減に繋げることが出来た。</p>
<p>【接遇委員会】 委員会を通じて各職員に目標を伝達し取り組んだ。</p>	<p>① 丁寧な言葉遣いと共に、利用者が親しみを感じやすい方言を交えるなど、職員が色々と工夫して声掛けを行っていくことも必要であると協議した。 ② 職員の身だしなみについては、目立った服装の乱れは見られない為、引き続きご利用者や家族の方に不快感を与えないように注意を行った。</p>
<p>【環境委員会】 立地条件より、施設内、施設外も視野に入れ活動を行った。</p>	<p>① 施設敷地内外の掃除を各部署・各ユニットにて週ごとに出勤時間内にて実施し、掃除チェックシートにて管理することになっていたが、掃除をしない、チェック表への記入をしないなど十分に行えないこともあり、その都度、委員会にて周知徹底をし、チェックシートの置き場所を変える等の取組みをしたが、まだまだ不十分なため今後の課題となった。</p>
<p>【防災防犯委員会】 水害、火災を中心に普段から訓練を行い対応力が向上するよう取り組んだ。</p>	<p>① 定期的な防災訓練を行うと共に、非常食の管理を一元化し、賞味期限が切れた物から更新した。</p>

<p>【広報委員会】 紙面やHPを使い情報発信に努めた。</p>	<p>① ブログ活用し情報発信する予定であったが、有効活用することができなかった。</p> <p>② 2ヶ月に1回の広報誌発行により、利用者、利用者様やの生き生きとした姿を紹介することで、家族や地域の方々に施設のアピールをすることが出来た。</p>
<p>【認知委員会】 専門家によるアドバイスを受けながらその人らしい生活が維持出来るように努めた。</p>	<p>① 認知症の方の現状と対応方法を毎月、他職種で検討することで、言葉に出せない変化にも早期に気づき色々な関わり方などを話し合う事が出来た。</p> <p>また、改善が難しい時や、BPSDのある認知症の方への対応については、その都度、相談員や医務・心療内科医と連携し、診察・服薬調整等を行い、個々の利用者の状態に合わせた対応を行った。</p>

8. 職員研修参加状況（ふたばの森）

月	日	内容	場所	出席者
4	21	認知症のある人に教わったこと～ココロと行動のしくみの理解～	オンライン	介護職員 1名
6	1	全国老施協安全対策担当養成研修	オンライン	機能訓練指導員 1名
6	5～6	ケアマネ更新研修課程Ⅰ	松山	主任生活相談員 1名
6	26～27	ケアマネ更新研修課程Ⅰ	松山	主任生活相談員 1名
7	2	県社協外国人介護人材の受入に関する研修会	市内	施設長 1名
7	28	愛媛県認知症介護基礎研修	市内	介護職員 1名
8	7～8	ケアマネ更新研修課程Ⅱ	松山	主任生活相談員 1名
8	21～	愛媛県老人ホーム大会	オンライン	看護職員 1名、介護職員 1名、管理栄養士 1名、生活相談員 1名
9	1～10/13	喀痰吸引講義7回	オンライン	リーダー介護職員 1名
10	6	県、東予老施協共催「感染症発生施設初期対応支援者養成研修」	市内	施設長 1名
10	5～11/16	喀痰吸引講義7回	オンライン	介護職員 1名
11	6～7	ケアマネ更新研修課程Ⅱ	松山	主任生活相談員 1名
11	4～	四国大会	オンライン	介護職員 2名、管理栄養士 1名
11	25.28	喀痰吸引演習2回	ふたば荘	リーダー介護職員 1名、介護職員 1名
12	6～1/23	喀痰吸引実地研修	施設内	リーダー介護職員 1名
12	23	県防災に関する研究・研修会	松山	機能訓練指導員 1名
1	12～2/20	喀痰吸引実地研修	施設内	介護職員 1名
1	15～2/4	喀痰吸引実地研修	施設内	介護職員 1名
2	14	愛媛県ノーリフティングケア普及啓発セミナー	オンライン	機能訓練指導員 1名、介護職員 1名
2	21	LIFEの導入とこれからの介護現場のあり方	オンライン	主任生活相談員 1名、生活相談員 1名
2	24	「悩む介護現場の管理者基本の「き」」セミナー	オンライン	施設長 1名
2	25	高齢者虐待防止研修	オンライン	主任生活相談員 1名
3	11	県「介護施設における看取りケア」	オンライン	看護職員 1名
3	11	安全で安心な店舗・施設づくり推進	オンライン	機能訓練指導員 1名

職員研修参加状況（デイサービスセンターふたばの森）

月	日	内容	場所	出席者
7	6	生活リハビリ活用術	オンライン	機能訓練指導員 1名
8	24	愛媛県老人ホーム大会	オンライン	介護職員 1名
11	8	四国大会	オンライン	介護職員 1名

9. 事業実施状況

月	保健衛生	施設管理	地域交流スペース利用状況	
4	/4~ 感染対策指標レベル4 /21 職員健康診断(29名) /21 ストレスチェック /25 利用者健康診断採血(21名) /25 栄養士検便(1名)+調理員(4名) /14~23 入居者健康診断(27名) /21~ コロナワクチン2回目接種(66名) /28 栄養士検便(1名)+調理員(4名)	/4 受水槽清掃 /6 EV定期点検 /6 EV定期点検 /6 食器一部更新入換 /19 防災食100食更新入換 /22 カーテン業者交替、取り替え /31 避難訓練 /6 定期点検 /16 荷物用EV点検 /21 厨房内排水溝清掃 /22 カーテン業者納品 /3 特浴機カーテン詰まり予防カバー /6 EV定期点検 /6 EV定期点検 /30 さくら8号エアコンドレン修繕 /31 浴室給湯器故障により全替え	/12 市コロナスクリーニング説明 /28 入居判定委員会(書面開催) /13~15 高齢者施設職員抗原行政検査(40名) /20 運営推進会議(書面審査) /23 内部学習会「口腔ケア」;松田歯科(32名) /7~ 元気もり教室船木開校 /15 内部学習会「食中毒防止」「感染対策」; ナリコマ(36名) /27 入居判定委員会(書面開催) /28 運営推進会議(書面審査) /24 内部学習会「身体拘束」(38名) /24 内部学習会「事故防止」「認知症の理解」; 担当研修員(36名) /28 運営推進会議(書面審査) /26 内部学習会「虐待防止不適切ケア」; 担当研修員(37名) /26 入居判定委員会(書面開催) /30 内部学習会「コロナ感染初期対応」; 机上訓練;感染対策委員会(35名) /22 運営推進会議19:00~ /22 実践発表「向きあいかかわり事故防止」; ふじ「認知症ケア」;アイ(36) /24 運営推進会議(書面審査) /25 内部学習会「防災に対する対策」; 担当研修員(38名) /31 入居判定委員会(書面開催) /16 内部学習会「法令遵守」; 研修担当者(33名)	常設移動販売 車椅子清掃ボランティア 特定建築物定期調査 新型コロナウイルス対策として全て中止 常設移動販売 常設移動販売 /18 介護予防教室サーマルカメラ購入 /19 防災食120食更新入換 /25 介護予防教室ノートパソコン購入 常設移動販売 常設移動販売 /13 さくら5号エアコン基板交換 常設移動販売 防災食100食更新入換 荷物用EV点検 非常用発電機定期点検 インフルエンザ予防接種(入所者25名) 心電計送信機入換更新 森の発表会Ⅲ(船木中学校吹奏部) 利用者38名 入所者21名 高齢者施設職員抗原行政検査(40名) 高齢者施設職員抗原行政検査(40名)
5	/27 栄養士検便(1名)+調理員(4名)	/6 EV定期点検 /16 荷物用EV点検 /21 厨房内排水溝清掃 /22 カーテン業者納品 /3 特浴機カーテン詰まり予防カバー /6 EV定期点検	/23 内部学習会「口腔ケア」;松田歯科(32名)	常設移動販売 介護予防教室サーマルカメラ購入 防災食120食更新入換 介護予防教室ノートパソコン購入 常設移動販売
6	/27 栄養士検便(1名)+調理員(4名)	/6 EV定期点検 /16 荷物用EV点検 /21 厨房内排水溝清掃 /22 カーテン業者納品 /3 特浴機カーテン詰まり予防カバー /6 EV定期点検	/23 内部学習会「口腔ケア」;松田歯科(32名)	常設移動販売 介護予防教室サーマルカメラ購入 防災食120食更新入換 介護予防教室ノートパソコン購入 常設移動販売
7	/25 栄養士検便(1名)+調理員(4名)	/6 EV定期点検 /16 荷物用EV点検 /21 厨房内排水溝清掃 /22 カーテン業者納品 /3 特浴機カーテン詰まり予防カバー /6 EV定期点検	/23 内部学習会「口腔ケア」;松田歯科(32名)	常設移動販売 介護予防教室サーマルカメラ購入 防災食120食更新入換 介護予防教室ノートパソコン購入 常設移動販売
8	/25 栄養士検便(1名)+調理員(4名)	/6 EV定期点検 /16 荷物用EV点検 /21 厨房内排水溝清掃 /22 カーテン業者納品 /3 特浴機カーテン詰まり予防カバー /6 EV定期点検	/23 内部学習会「口腔ケア」;松田歯科(32名)	常設移動販売 介護予防教室サーマルカメラ購入 防災食120食更新入換 介護予防教室ノートパソコン購入 常設移動販売
9	/10 厨房、デイロキブリ害虫駆除 /18~ 職員健康診断(22名) /24 栄養士検便(1名)+調理員(4名)	/16 市防災ラジオ不調修繕 /15 台風直前水防訓練 /6 EV定期点検 /13 消防設備点検	/24 内部学習会「事故防止」「認知症の理解」; 担当研修員(36名) /28 運営推進会議(書面審査)	常設移動販売 防災食100食更新入換 荷物用EV点検 非常用発電機定期点検
10	/5~24 職員健康診断(23名) /9 利用者健康診断採血(22名) /17~ インフルエンザ予防接種(職員44名) /23 入居者健康診断(25名) /24 栄養士検便(1名)+調理員(4名) /8 インフルエンザ予防接種(入居者25名) /27 栄養士検便(1名)+調理員(4名) 栄養士/ロ検査(1名)+調理員(4名)	/6 EV定期点検 /8 厨房スチコン修繕 /5 特浴ストレッチャーキヤスター全交換 /31 電気設備年次点検 /6 EV定期点検 /10 ストックハウスアンカー固定 /20 ストレッチャー更新入換	/26 内部学習会「虐待防止不適切ケア」; 担当研修員(37名) /26 入居判定委員会(書面開催)	/17~ インフルエンザ予防接種(入所者25名)
11	/9 入居者レントゲン撮影(28名) /24 栄養士検便(1名)+調理員(4名) /24 栄養士/ロ検査(1名)+調理員(4名)	/6 EV定期点検 /12 県シエイクアウト(震災)訓練 /8 荷物用EV点検 /2 厨房洗滌機基板交換 /6 EV定期点検 /15 ショートベッドマットレス5枚入換 /17 業務用冷蔵庫庫内パッキン交換 /6 EV定期点検	/30 内部学習会「コロナ感染初期対応」; 机上訓練;感染対策委員会(35名) /22 運営推進会議19:00~	/20 心電計送信機入換更新 森の発表会Ⅲ(船木中学校吹奏部) 利用者38名 入所者21名
12	/26 栄養士検便(1名)+調理員(4名) /26 栄養士/ロ検査(1名)+調理員(4名) /28~ コロナワクチン3回目接種(66名)	/6 EV定期点検 /12 県シエイクアウト(震災)訓練 /8 荷物用EV点検 /2 厨房洗滌機基板交換 /6 EV定期点検 /15 ショートベッドマットレス5枚入換 /17 業務用冷蔵庫庫内パッキン交換 /6 EV定期点検	/24 運営推進会議(書面審査) /25 内部学習会「防災に対する対策」; 担当研修員(38名)	/20 高齡者施設職員抗原行政検査(40名) 高齡者施設職員抗原行政検査(40名)
1	/25 栄養士検便(1名)+調理員(4名) /25 栄養士/ロ検査(1名)+調理員(4名)	/6 EV定期点検	/31 入居判定委員会(書面開催) /16 内部学習会「法令遵守」; 研修担当者(33名)	/20 高齡者施設職員抗原行政検査(40名) 高齡者施設職員抗原行政検査(40名)
2	/25 栄養士検便(1名)+調理員(4名) /25 栄養士/ロ検査(1名)+調理員(4名)	/6 EV定期点検	/31 入居判定委員会(書面開催) /16 内部学習会「法令遵守」; 研修担当者(33名)	/20 高齡者施設職員抗原行政検査(40名) 高齡者施設職員抗原行政検査(40名)
3	/25 栄養士検便(1名)+調理員(5名) /25 栄養士/ロ検査(1名)+調理員(5名)	/6 EV定期点検 /8 荷物用EV点検 /15 総合避難訓練	/16 「看取り」; リスクマネジメント」; 担当研修員(34名) /31 運営推進会議(書面審査)	/15 中間浴機器バルブ交換、設置箇所移設 /22 消防設備点検 /29 非常用発電機定期点検

10.特養利用者の概要

(1)利用者の状況

令和4年年3月31日現在

在所期間の状況

期 間	男	女	計	比率(%)
5年以上～10年未満	2	4	6	21%
3年以上～5年未満	1	7	8	28%
1年以上～3年未満	5	3	8	28%
1年未満	2	5	7	24%
合 計	10	19	29	100%

年齢構成

区分	65歳未満	65～74	75～79	80～84	85～89	90～100	101～	平均
男	0	1	0	3	4	2	0	85.6
女	0	0	1	2	6	10	0	90.5
合計	0	1	1	5	10	12	0	88.8

①平均年齢は約88.8歳となっている。

②最高齢者は、男性97歳、女性100歳で、最も若い利用者は、男性74歳、女性78歳である。

要介護度の状況 (R3年3月)

〔要介護度〕

介護度	1	2	3	4	5	合計	平均
男 性	0	0	4	3	3	10	3.90
女 性	0	0	4	9	6	19	4.11
合 計	0	0	8	12	9	29	4.03
前年度実績	0	0	8	8	13	29	4.17

(2)入退所状況

利用者状況

〔月別新規入所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
女	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	5
計	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	1	7

退所者状況

〔月別退所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
女	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	1	5
計	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0	1	1	7

7名の方が退所となり、その内死亡退所5名、入院継続1名、在宅復帰1名となっている。

(3)日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活自立度（寝たきり度）

〔利用者29名〕

ランク J 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
ランク A 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	6
ランク B 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	5
ランク C 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	4
	2 自力では寝返りもうたない。	1

認知症老人の日常生活自立度判定

〔利用者29名〕

項目	痴 呆 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	2
ランク I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	2
ランク II	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	0
	b 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	6

ランクⅢ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	10
	b 夜間を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	4
ランクⅣ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	4
ランクⅤ	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	1

(5)利用者医療状況 疾病状況

順	疾病名	人数	順	疾病名	人数
1	便秘症	6	35	脳血管性認知症	5
2	高血圧症	13	36	狭心症	1
3	脳梗塞後遺症	7	37	アルコール性認知症	3
4	老人性認知症	0	38	アルコール性精神病	0
5	糖尿病	5	39	高脂血症	0
6	骨粗鬆症	2	40	股関節変形症	0
7	アルツハイマー型認知症	13	41	統合失調症	0
8	胸椎・腰椎圧迫骨折	4	42	C型肝炎	1
9	大腿骨頸部骨折	0	43	ペースメーカー	2
10	レビー小体型認知症	0	44	不定愁訴	0
11	心不全	3	45	僧帽弁閉鎖不全	0
12	パーキンソン病	3	46	関節リウマチ	1
13	心筋梗塞	0	47	高度難聴	0
14	変形性膝関節症	1	48	両変形性股関節症	0
15	尿路感染症	3	49	前頭側頭葉変性症	0
16	腰痛症	0	50	洞不全症候群	1
17	胃瘻増設	1	51	腰部脊柱管狭窄症	1
18	心経因性膀胱	0	52		
19	肺炎	2	53		
20	慢性腎不全	0	54		
21	変形性脊椎症	0	55		
22	呼吸不全	0	56		
23	脳出血後遺症	2	57		
24	白内障	0	58		
25	うつ病	0	59		
26	心房細動	0	60		
27	前立腺肥大	1	61		
28	症候性てんかん	2	62		
29	頸椎損傷	0	63		
30	硬膜下血腫	0	64		

今年も身体拘束ゼロについては、施設全体で取り組んでおり、身体拘束防止委員会を設置し、利用者の身体拘束を個別に検討し、福祉用具の導入や現在行われている介護を見直し、よりよいケアの実現を目指すよう努力している。委員会メンバーは・施設長・生活相談員・看護職員・栄養・グループ職員からの構成になっている。

尚、運営基準で利用者の生命又は身体を保護するため、緊急やむを得ない場合を除き、行動を制限する行為を行ってはならないと規定されており、身体拘束などを行う場合には、その対応及び時間、利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。また、その際は、利用者本人や家族に対して詳細な説明と十分な理解を得る必要がある。現在身体拘束は実施していない。

(7) ユニットケア実施状況

全体行事

	さくら	ふじ	いちよう	もみじ	合計
1月4日 初詣	1	1	5	2	9
12月25日 森の音楽会	2	4	6		12
	3	5	11	2	21

※コロナ禍のため、全体行事・外出は控え、各ユニット個別でイベントを行った。

ユニット行事実施状況

実施月	さくら	ふじ	いちよう	もみじ
1月		昔話をもう一度読む会		
2月			おやつ作り (ブラウニー)	
3月		桜見物ドライブ		おやつ作り
4月				
5月		昔のおやつ作り (はちのす焼き)		
6月				
7月	夕涼み会 (花火)	夕涼み会 (花火)		
8月		天ぶら食堂	夕涼み会 (花火)	夏祭り (簡易屋台)
9月		お好み焼き作り	おやつ作り (パフェ)	新居浜弁紙芝居
10月	自宅付近ドライブ			思い出の場所ドライブ
11月	ドライブ	もみじ見物ドライブ	もみじ見物ドライブ	もみじ見物ドライブ
12月		おしるこ作り	もみじ見物・買い物	

個別ケア 実施状況

《さくらユニット》

(入浴実施状況： 2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	43	39	38	40	42	37	42	42	38	30	30	36	457
座位入浴	17	12	16	18	18	18	14	15	14	19	15	18	194
自立補助入浴	16	17	16	16	17	15	16	17	16	17	17	17	197
清拭	1	4	4	1		4	6	7	4	1			32
シャワー浴	7	9	7	10	11	7	4	1	0	0	0	0	56
合計	84	81	81	85	88	81	82	82	72	67	62	71	936

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出、買い物、外食								4				9	13
美容、理容			10	4	4	0	0	9	9	8		10	54
季節行事・レクレーション				10			1	10				7	28
お誕生会	1			1	1			2	1		2	1	9
合計	1	0	10	15	5	0	1	25	10	8	2	27	104

《ふじユニット》

(入浴実施状況：2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	19	24	24	22	18	26	19	15	12	18	21	31	249
座位入浴	47	42	39	46	40	36	38	41	57	38	34	36	494
自立補助入浴	2	1	4	2	4	1	0	0	0	2	1	1	18
清拭					2			3					5
シャワー浴													0
合計	68	67	67	70	64	63	57	59	69	58	56	68	766

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出、買い物、外食												8	8
美容、理容			9	5				7	4	8			33
季節行事		8		8	8	8		5	7	6			50
お誕生会							1	3	2	3			9
合計	0	8	9	13	8	9	0	15	13	17	0	8	100

《いちょうユニット》

(入浴実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	18	17	14	18	23	18	18	16	16	18	14	15	205
座位入浴	31	27	23	24	25	26	27	25	20	24	21	28	301
自立補助入浴	26	26	24	25	26	26	33	34	41	42	37	46	386
清拭			1	2		2		1					6
シャワー浴		1		1		1							3
合計	75	71	62	70	74	73	78	76	77	84	72	89	901

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
美容・理容など				10				10	6			6	32
外出・外食・買い物								7	1				8
季節行事				10	9	9	10		6	5	10	8	67
お誕生会		3		1	3			1				1	9
合計	0	3	0	21	12	9	10	18	13	5	10	15	116

給食栄養状況

栄養ケアマネジメントの実施により、一人ひとりの栄養ケアプランが十分に実施されるよう、他職種協働で取り組みを行い、利用者の個別性に対応している。

栄養ケアマネジメント

月	ケアマネジメント実施数 (人)	低 リスク	中 リスク	高 リスク	リスク 未定	合 計
4月	29	13	11	5	0	29
5月	29	12	13	4	0	29
6月	29	10	15	4	0	29
7月	29	11	13	5	0	29
8月	29	12	12	5	0	29
9月	29	11	13	5	0	29
10月	29	13	11	5	0	29
11月	29	17	8	4	0	29
12月	29	18	7	4	0	29
1月	29	18	8	3	0	29
2月	29	19	6	4	0	29
3月	29	18	7	4	0	29
合 計	348	172	124	52	0	
月平均	29.0	14.3	10.3	4.3	0.0	

栄養ケアマネジメントによる一人ひとりへの細かいプランを立て実施している。低栄養改善への早期アプローチにて、健康増進に繋げている。

食事の状況

	主 食					副 食				
	普通	握食	粥食	ミキサー	経管	普通	刻食	ミキサー	ソフト	経管
居 室	0	0	1	0	1	0	0	2	1	1
食 堂	14	5	7	1	0	17	0	1	7	0
合 計	14	5	8	1	1	17	0	3	8	1

行事食の献立状況

月 日	行 事 名	献 立
4/3	春の行事食	筍御飯・鯛の煮付け・かき揚げ・かきたま汁・フルーツポンチ
5/5	こどもの日	オムライス(ケチャップソース)・エビフライ(タルタルソース)・コンソメスープ・手作りメロンゼリー
5/12	母の日	豆御飯・さわらの照り焼き・小松菜のごま和え・茶碗蒸し・ミニ筑前煮・生果物
7/7	七夕	稲荷寿司・七夕ソーメン・大根と豚肉の煮物・マンゴー缶
7/21	土用の丑の日	うな井・高野豆腐のサイコロ煮・味噌汁(もやし・しいたけ)・胡瓜の浅漬け風
8/13	お盆	夏の炊き込み御飯・天ぷら盛り合わせ・トマトときゅうりのマリネ・えのきのすまし汁・メロン
9/21	敬老の日	松茸御飯・赤魚の照り煮・なすの揚げ浸し・白菜のレモン風味・茶碗蒸し(鶏肉・ぎんなん)
10/7	いもたき会	いもたき・ちらし寿司・ほうれん草の白和え・梨
12/29	クリスマス・忘年会	たこ飯・白身魚のかぶら蒸し・大根と厚揚げの煮物・小松菜とえのきのお浸し・味噌汁(さつまいも・玉ねぎ)・ヨーグルト(いちご乗せ)
12/31	大晦日(夕食)	年越しそば(えび天)・大根と豚肉の炒め物・みかん
1/1	お正月(祝い膳)	赤飯・有頭海老の旨煮・合鴨スモーク・ほたて旨煮・数の子・寿高野の煮物・伊達巻・絵馬蒲鉾・花三色・お煮(蓮根の煮、六角里芋煮、和風ふき煮、昆布巻き、くわい)・黒豆煮(クコの実)・栗きんとん(栗の甘露煮)
2/2	賀寿のお祝い	花形ちらし寿司・さわらの西京焼き・菜の花のからし和え・大根の煮物・えのきのすまし汁・さつまいもとりんごの甘煮
3/3	ひなまつり	ひし形寿司・絹揚げとふきの煮物・手作り茶碗蒸し(鶏肉・ぎんなん)・フルーツ
3/18	お彼岸	山菜おこわ・手作りがんもどき・精進筑前煮・わかめ入りかきたま汁・フルーツヨーグルト和え

短期入所生活介護の利用状況

R4.3.31現在

		合計	R03.04	R03.05	R03.06	R03.07	R03.08	R03.09	R03.10	R03.11	R03.12	R04.01	R04.02	R04.03
稼働日数		365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	13.4	13.1	13.8	13.1	12.7	12.5	13	12.5	13.8	14.6	14	14	13.8
	男	2.6	2.2	2.4	2.9	2.7	2.4	1.8	1.7	2.6	3.3	3.3	3.3	2.8
	女	10.8	10.9	11.4	10.1	9.9	10.1	11.2	10.8	11.2	11.3	10.6	10.8	11.1
利用延べ人数	計	4890	393	429	392	393	387	390	387	413	452	433	392	429
	男	953	67	75	88	85	74	54	52	77	101	103	91	86
	女	3937	326	354	304	308	313	336	335	336	351	330	301	343
介護度別														
平均要介護	計	3.2	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2
	男	3.3	3.2	3.5	3.5	3.6	3.3	2.9	3	3.1	3.3	3.4	3.4	3.2
	女	3.2	3.3	3.3	3.1	3.1	3.1	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2
要介護1	計	340	32	32	38	36	27	31	23	24	29	24	23	21
	男	22	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	女	318	30	30	36	34	25	29	21	22	27	22	21	21
要介護2	計	1338	103	104	92	87	108	108	117	123	125	129	119	123
	男	324	29	21	25	19	26	25	22	30	31	28	31	37
	女	1014	74	83	67	68	82	83	95	93	94	101	88	86
要介護3	計	1049	85	88	86	88	92	81	89	85	87	86	78	104
	男	28	2	2	2	2	4	5	4	5				2
	女	1021	83	86	84	86	88	76	85	80	87	86	78	102
要介護4	計	1162	70	95	98	107	91	100	74	94	123	115	91	104
	男	490	20	35	45	47	33	22	24	40	68	68	48	40
	女	672	50	60	53	60	58	78	50	54	55	47	43	64
要介護5	計	1001	103	110	78	75	69	70	84	87	88	79	81	77
	男	89	14	15	14	15	9					5	10	7
	女	912	89	95	64	60	60	70	84	87	88	74	71	70
居住区別														
ユニット個室	計	1								1				
	男													
	女	1								1				
多床室	計	4889	393	429	392	393	387	390	387	412	452	433	392	429
	男	953	67	75	88	85	74	54	52	77	101	103	91	86
	女	3936	326	354	304	308	313	336	335	335	351	330	301	343
構成比(%)														
介護度別														
要介護1		7	8.1	7.5	9.7	9.2	7	7.9	5.9	5.8	6.4	5.5	5.9	4.9
要介護2		27.4	26.2	24.2	23.5	22.1	27.9	27.7	30.2	29.8	27.7	29.8	30.4	28.7
要介護3		21.5	21.6	20.5	21.9	22.4	23.8	20.8	23	20.6	19.2	19.9	19.9	24.2
要介護4		23.8	17.8	22.1	25	27.2	23.5	25.6	19.1	22.8	27.2	26.6	23.2	24.2
要介護5		20.5	26.2	25.6	19.9	19.1	17.8	17.9	21.7	21.1	19.5	18.2	20.7	17.9
その他														
性別														
男		19.5	17	17.5	22.4	21.6	19.1	13.8	13.4	18.6	22.3	23.8	23.2	20
女		80.5	83	82.5	77.6	78.4	80.9	86.2	86.6	81.4	77.7	76.2	76.8	80

【令和3年度 利用者年齢層×介護度】

利用者／介護度	事業対象者		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	合計
	計	男女									
65～69歳	計			1							1
	男										0
	女			1							1
70～74歳	計		1		1	1					3
	男		1		1						3
	女										0
75～79歳	計		1	1	2	2					4
	男				1	1					1
	女		1	1	1	1					3
80～84歳	計		2	3	5	3	6				19
	男		1	1	1	1	2				5
	女		1	2	4	2	4				14
85～89歳	計	1	1	3	4	10	3	1			23
	男			1	1						2
	女	1	1	2	3	10	3	1			21
90歳以上	計	2	3	2	15	7	2		1		32
	男		2	2	3	1	1				7
	女	2	1	1	12	6	1		1		25
合計	計	3	8	10	25	23	11	1	1		82
	男		4	1	6	4	3	0	0		18
	女	3	4	9	19	19	8	1	1		64
											0

令和4年3月31日現在

※平均年齢：86.6歳で（男性86.6歳 女性86.6歳）
 最高齢者は、男性で94歳、女性で99歳
 ■平均介護度：1.9（要支援を除く）

【令和3年度デイサービスセンター利用状況(月別)】

	令和3年												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
前月末 サービス登録人員	82	85	85	85	79	82	81	85	86	84	84	83	1,001
新規 サービス登録人員	2	4	1	4		4	1	7	1	3	2	3	32
月末 サービス登録人員	82	82	85	83	81	81	82	80	86	82	83	82	989
月間 運営日数	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27	309
月間 利用実人員	77	74	77	75	74	75	75	74	77	75	77	78	908
月間 利用延人員	686	691	688	689	665	681	693	707	712	591	696	782	8,281
一日平均利用人数	26.4	26.6	26.5	25.5	25.6	26.2	26.7	27.2	28.5	24.6	29.0	29.0	26.8
事業対象者	17	17	17	15	17	18	17	17	20	17	20	22	214
要支援1	18	10	18	31	29	38	36	26	31	22	15	21	295
要支援2	73	83	69	72	64	75	67	73	77	62	67	80	862
要介護1	226	226	210	229	230	213	217	259	215	179	204	232	2,640
要介護2	273	263	263	244	240	251	242	218	255	222	283	300	3,054
要介護3	37	59	82	74	71	71	96	94	98	80	95	112	969
要介護4	29	18	17	11	3	8	9	14	8	4	4	7	132
要介護5	13	15	12	13	11	7	9	6	8	5	8	8	115
入浴情報(延べ)	554	560	562	596	567	587	602	609	601	513	622	693	7,066
一般浴	476	490	488	506	489	492	511	530	495	427	503	563	5,970
リフト浴	78	70	74	90	78	95	91	79	106	86	119	130	1,096
食事情報(延べ)	682	687	685	688	662	675	688	702	707	584	689	779	8,228
機能訓練/機能向上	488	512	488	479	466	461	478	506	472	421	520	550	5,841

※一日平均利用人数:26.8人

グループホームふたばの森

目標及び課題	成果等
(1) 地域福祉サービスの創造と展開	① 日常的に（利用者との散歩時等に）ゴミ拾いによる地域美化活動を実践し地域社会への貢献を行った。
(2) サービスの質の向上	① 愛媛県認知症介護実践者研修1名、認知症対応型サービス事業管理者研修1名が受講し、認知症介護技術の向上及び人材の育成を図った。 ② ICT化に伴い、介護記録の効率化・内容の充実及び利用者ニーズ分析への活用をはかり、サービスの質の向上を図った。 ③ 職員自己研鑽を目的にそれぞれの職員が研修担当を持ち、年間事業所内研修計画を立案・実践した。 ④ 法人内介護実践取組（発表）への参加にてテーマに対する課題分析能力の向上を図った。
(3) 持続可能な経営基盤の確立	① 年間稼働率97.1%となり、目標を下回った。 ② 収入の安定化 利用者ごとの健康状態の把握と不調徴候の観察強化に努め、早期対応にて重篤化・入院等の回避に努めたが、入院者は増加し入院状態が継続したため利用率が低下した。 ③ 人件費の見直しのため、勤務希望・特性に応じた職員の配置の見直しを行った。
(4) その他	① 介護サービスの公表項目事項の再整備・見直しを行った。 ② 自己評価・外部評価項目の見直し・取組んだ。

GH利用者の概要

(1)利用者の状況

令和4年3月31日

在所期間の状況

[利用者17名]

期 間	男	女	計	比率(%)
20年以上	0	0	0	0.0
15年以上～20年未満	0	0	0	0.0
10年以上～15年未満	1	2	3	17.6
7年以上～10年未満	0	0	0	0.0
5年以上～7年未満	0	4	4	23.5
3年以上～5年未満	0	1	1	5.9
1年以上～3年未満	2	4	6	35.3
1年未満	0	3	3	17.6
合 計	3	14	17	100.0

年齢構成

区分	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計	平均年齢
男	0	0	0	0	1	0	1	1	3	90.0
女	0	0	0	2	4	2	4	2	14	87.4
合計	0	0	0	2	5	2	5	3	17	87.8

①最高齢者は、男性96歳、女性100歳で、最も若い利用者は、男性84歳、女性77歳である。

要介護度の状況

[要介護度]

介護度	年齢区分	自 立	支 援	1	2	3	4	5	合計	平均
男性	40～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	75～79歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	80～84歳	0	0	0	1	0	0	0	1	2.00
	85歳以上	0	0	0	0	0	1	1	2	3.50
女性	40～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	75～79歳	0	0	0	1	1	0	0	2	2.50
	80～84歳	0	0	0	3	1	0	0	4	2.25
	85歳以上	0	0	0	2	3	1	2	8	3.38
	男 性	0	0	0	1	1	1	0	3	3.00
	女 性	0	0	0	6	5	1	2	14	2.93
	合 計	0	0	0	7	6	2	2	17	2.94
	前年度実績	0	0	1	4	5	4	4	18	3.28

(2)入退居状況

利用者状況

〔月別新規入居者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3
計	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3

〔入居前住居〕

区分	在宅	病 院			介護施設			その他施設	合計
		一般病棟	精神病棟	療養病棟	介護療養施設	老人保健施設	特別養護老人ホーム		
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	1	0	0	0	0	1	0	1	3
計	1	0	0	0	0	1	0	1	3

〔新規利用者世帯状況〕

	単身	夫婦	未婚子同居	既婚子同居	その他	合計
男	0	0	0	0	0	0
女	2	0	0	1	0	3
計	2	0	0	1	0	3

退居者状況

〔退居理由〕

	家庭復帰	入院継続	施設入居	死亡(病院)	死亡(GH)	合計
男	0	1	0	0	0	1
女	0	0	1	1	1	3
計	0	1	1	1	1	4

〔月別退居者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	4

(3) 日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活動作の状況

[利用者17名]

項目	動作内容	男	女	計	項目	動作内容	男	女	計
移動	時間がかかっても介助なしに一人で歩く	0	4	4	入浴	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	0	0
	手を貸してもらうなど一部介助を要する	3	8	11		体を洗ってもらうなど一部介助を要する	2	12	14
	全面的に介護を要する	0	2	2		全面的に介護を要する	1	2	3
食事	やや時間がかかっても介助なしに食事する	1	9	10	着替	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	0	0
	おかずを刻んでもらうなど一部介助を要する	2	3	5		袖を通してもらうなど一部介助を要する	3	12	15
	全面的に介護を要する	0	2	2		全面的に介護を要する	0	2	2
排泄	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	1	1	整容	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	0	0
	便器に座らせてもらうなど一部介助を要する	2	11	13		タオルで顔をふいてもらうなど一部介助を要する	3	12	15
	全面的に介護を要する	1	2	3		全面的に介護を要する	0	2	2

日常生活自立度（寝たきり度）

[利用者17名]

ランクJ 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
	2 隣近所なら外出する。	0
ランクA 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	6
	2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	5
ランクB 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	2
	2 介助により車椅子に移乗する。	3
ランクC 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	0
	2 自力では寝返りもうたない。	1

認知症老人の日常生活自立度判定

[利用者17名]

項目	認知症の程度	
正常	認知症の症状無し	0
ランクⅠ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	0
ランクⅡ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	0
	b 家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	2
ランクⅢ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	4
	b 夜間を中心として、上記Ⅲの状態が見られる。	3
ランクⅣ	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	8
ランクⅤ	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	0

すべての利用者にランクⅢ以上の認知症状が観察される。

受診状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
受診人数	3	9	9	14	16	11	11	7	10	8	7	6	111	9.3	0.3
受診回数	4	19	18	28	29	23	20	13	20	16	15	11	216	18.0	0.6

入居前のかかりつけ医への受診を継続的に支援している。

入院状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均 入院人数
実人数	1	1	1	0	0	1	0	1	2	1	1	0	9	0.8	
延日数	4	28	8	0	0	3	0	20	12	31	2	0	108	9.0	0.3

行 事

実施月	1階ユニット (どんぐり)	2階ユニット (くるみ)
4月	花見 (敷地内)	花見 (敷地内)
5月	おやつづくり	おやつづくり
6月	おやつづくり	おやつづくり
7月	そうめん流し	そうめん流し
8月	おやつづくり	海鮮丼づくり
9月	おやつづくり	おやつづくり
10月	お寿司づくり	お寿司づくり
11月	おやつづくり	おやつづくり
12月	クリスマス 餅つき 海鮮丼づくり	クリスマス 餅つき
1月	おやつづくり	おやつづくり 新年会
2月	節分 ケーキ作り	節分
3月	おやつづくり	おやつづくり

コロナ禍のため、外出行事は控え、事業所内で行事を行っている。